

第 15 回国際科学技術関係大臣会合について

" The 15th Science and technology Ministers ' Roundtable "

- 1 . 日 時 : 平成 30 年 (2018) 年 10 月 7 日 (日) 12:00 ~ 14:50
- 2 . 場 所 : 国立京都国際会館 (京都市左京区宝ヶ池) Annex Hall
- 3 . 出席者 : 世界 22 ヶ国の科学技術大臣等 (日本を含む : 別紙参照)
- 4 . テーマ : 「 SDGs 達成に向けた科学技術イノベーション (STI) の役割
~ STI for SDGs 推進に伴う光と影 ~ 」
" The Role of Science, Technology and Innovation (STI) for Sustainable Development Goals (SDGs) - Lights and Shadows of STI for SDGs - "

5 . 結果概要

- (1) 平井科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、平井大臣から、各国の出席にお礼を述べるとともに、下記について言及があった。

来年度我が国では G20 首脳会合やアフリカ開発会議 (TICAD 7) を開催するが、これらの国際会議においては、「 STI for SDGs 」についても活発な議論が期待されること。

これらの国際会議に先立ち、参加各国における方針や取組の経験を共有してそれぞれの取組をさらに進展できるよう、本会合でも「 STI for SDGs 」をテーマとして選定したこと。

- (2) 続いて、赤石政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) より、日本における STI for SDGs に関する取組、およびディスカッションポイントについて説明があった。ディスカッションポイントについては以下のとおり。

貴国では、 STI for SDGs を促進するためのビジョンとしてどのようなものがあるか？

STI for SDGs を効果的かつ効率的に推進するためには何が重要か？
(例 : 投資、人材、政府の関与、国際協調など)

STI for SDGs の取組みとして貴国が重視しているものは何か？

STI for SDGs の取り組みの光と影とは何か？また、その影に対する予防策、対応策としてあげられることは何か？

(3) 続いて、平井大臣による進行のもと、本会合のテーマの論点に関し、出席国における取組等について意見交換が行われた。具体的には各国から下記のような発言があった。

財源・資源・人材が限られているため、世界の社会課題解決に国際協力やネットワークが重要である。イノベーターは新しい市場を形成するが、経済的利益の最大化だけでなく、原理原則として社会・市民のために社会的責任感を持って活動する必要がある。どのような技術開発にも影はあり、現在のメガトレンドである AI も影がある。最新の技術やアプリケーションでは、科学の応用がどんな意味合いを持つか考え評価する取り組みが必要。

自然資源、人的資源の劇的な開発が必要なため、SDGs 達成のためには、国が関与する投資計画による急速な経済発展が必要。教育が重要であるが、現在の教育制度は STI の能力開発が強調されておらず、SDGs 達成には伝統的な教育制度の改革が必要。若者の能力を伸ばして大学進学させれば、経済を牽引することができる。STI は先進国と発展途上国の間のギャップが大きく、世界からの援助や協力を求めている。STI のリーダーとなる国と協力が重要。

SDGs は経済・社会・幸福・健康・自然/人間・人間性などのバランスが重要。グリーンエコノミーが経済成長のエンジン。STI for SDGs 推進のため貧困の撲滅、次世代の人材育成、スタートアップや中小企業の競争力向上、社会、地域格差の縮小のための地域活性化の 4 つの分野で STI を活用している。我々が協力して初めて科学は世界を救える。十分に技術をコントロールできれば STI は光をもたらす。

SDGs は包摂性のあるアジェンダで生活の質を改善し、繁栄への関与と将来にわたる持続的発展を約束する大事なコンセプト。国の発展政策にも取り入れ、特に教育への取り組みを重視。そのほか、持続可能な森林資源管理、海洋資源(塩)管理、農業分野では食品・栄養安全保障、地球研究のための情報システム、女性の活躍促進、気候変動問題、技術移転などにも取り組んでいる。影に対する対抗措置は、高等教育への投資、特に科

学研究のための研究者や技術者への投資が重要。多様な取り組みが求められており、様々なレベルでの協力・強調が必要。

STI は様々な問題の解決に資する。2017 年には、2030 アジェンダを政府が承認。国家戦略を策定、その中では 106 のターゲットを設定し、2030 年までに達成を目指す。このターゲットには、持続可能な資源による所得・生活・教育の水準の向上、健康の担保、ガバナンスの担保、健康的で優れた生活環境の提供などが含まれる。人間を中心とした政策で STI を駆使して目標の達成を目指す。SDGs を達成するため大学・研究機関・企業の協調を促し、共通目標で社会問題の解決を目指す。

- (4) 梶原総合科学技術・イノベーション会議議員からラップアップが行われ、人材育成や教育の充実、国際協力の強化、また、経済的な発展との両立の重要性、 STI に関するファンドの創設やインフラの整備、研究開発のプログラムの強化等、産官学が連携して取り組む重要性、 オープンサイエンス、データベース、サイバーセキュリティ等への対応の必要性、など各国から指摘されたことを述べられた。
- (5) 最後に平井大臣から閉会挨拶が行われた。

第 15 回国際科学技術関係大臣会合出席者（結果）

平成 30 年 10 月 7 日（日） 12:00-14:50

No.	Country	Name	Position
1.	アルジェリア	タハル・ハジャル	教育・科学研究大臣
2.	アンゴラ	マリア・ド・ロザリオ・ブラガンサ・サンボ	高等教育・科学技術イノベーション大臣
3.	ブルガリア	イヴァン・ディモフ	教育・科学大臣顧問(前教育・科学副大臣)
4.	キューバ	フェルナンド・マリオ・ゴンザレス・ベルムデス	科学技術環境第一副大臣
5.	チェコ	ロバート・ブラガ	教育・青少年・スポーツ大臣
6.	エジプト	ハーレド・アブデル・ガッフアール	高等教育・科学研究大臣
7.	欧州連合	ジャン・エリック・パケ	欧州委員会研究イノベーション総局長
8.	イラン	マンスール・ゴラーミー	科学技術大臣
9.	日本	平井 卓也	内閣府特命担当大臣（科学技術担当）
10.	コソボ	シュテュソ・ピウトウチ	教育・科学技術大臣
11.	レソト	トゥレ・マセリバネ	通信・科学技術大臣
12.	モルドバ	モニカ・バブク	教育・文化・研究大臣
13.	ナミビア	イタ・カンジ＝ムランギ	高等教育・訓練・イノベーション大臣
14.	ナイジェリア	アバヨミ・オガンツェンデ	科学技術省 バイオリソース技術課長
15.	フィリピン	フォルチュナト・デ・ラ・ペーニャ	科学技術省長官
16.	カタール	イブラヒーム・サラ・アルナイミー	教育・高等教育省次官
17.	セルビア	ヴラジーミル・ポボビッチ	科学技術・国際協力担当政務官
18.	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁（A*STER）長官
19.	スリランカ	アヌムガマ・サラート	科学技術・研究・能力開発・職業訓練・キャンディ遺産大臣
20.	タイ	スピート・マイアンシー	科学技術大臣
21.	イギリス	パトリック・ヴァランス	主席科学顧問
22.	ウクライナ	リリヤ・フリネーヴィッチ	教育・科学大臣